

熊本県訪問看護連絡協議会 災害・教育広報合同会議

日 時	令和3年5月29日(土) 13:30~15:30																			
場 所	看護協会2階 研修室																			
委 員	役員			災害委員							教育広報委員									
氏 名	木村	森安	山下	遠藤	河添	荒牧	宮崎	青木	田代	伊藤	高田	竹内	宇土	日高	池田	松本	田中	湯野	杉本	塚本
参 加	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	欠	○	○	欠

木村代表より：熊本県は組織ができあがっている中、地震や水害を経験し、災害マニュアルを作成、見直しをしてきた。個人事業所だけでは対応が難しい部分をペアステーションと協働、地域で支えていく体制を確立しつつある。昨年度はコロナ禍で各委員会思うような活動ができず、今年度は災害・教育委員が合同で活動していく

不足の事態が発生した時も重要な事業を中断させずに短期間で復旧する必要がある 方針・体制・手順を考えていく

【議事内容】

①BCP 作成（災害・新型コロナウイルス感染症発生）

BCP 中に、連絡協議会、管理者会の仕組みや連携方法も取り入れる

できれば「ブロックで報告するシステム作り」

災害マニュアルを活用する。（特にライフラインが絶たれた時の対応をしっかり行う）

介護予防の利用者が多い事業所は、避難（宿泊場所など）についても検討する

「新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画」について意見交換

(別紙資料)

▶平常時からの備え

- ・体調チェックに関しては、本人だけでなく同居家族の体調も必要
- ・コロナ陽性者は発熱するとは限らない為、職員で感冒様や鼻炎様症状がある場合は受診をすすめる事も必要
- ・チェック表は一目でわかるものが確認しやすい。しかし個人情報の問題もある
- ・リストについて：利用者の状態、優先度、訪問の必要性、回数等
- ・熊本地震後以降、利用者の滞在先の確認を行っている事業所もある。在宅、ショート利用、予定入院等→一目で確認がとりやすい

▶初動対応

- ・クロノロジー(災害時の記録)を時間軸で記録(管理者、スタッフが動いた事)
- ・ペアステーションやブロック代表へ連絡、必要時はサポート体制を整える

▶感染拡大防止体制の確立

- ・濃厚接触時した職員、家族の2週間の行動状況を正確に聞き取る

- ・防護服等の備蓄は5～10日分ほど確保が理想
- ・調達方法は各事業所で異なる
- ・情報共有の手段はホームページもある

②年間スケジュール・研修内容

- ・研修会の開催頻度：年1回の秋頃
- ・訪問看護従事者研修との兼ね合い
- ・内容については、ステーションでコロナ発生時の対応について知りたい、体験者からの話し（問題に対する対応、課題）、専門科からの正しい知識も知りたいという意見が3月の管理者会であがった。次回詳細を意見交換していく
- ・研修をシリーズ化しては（地震・水害・風害）

次回：令和3年7月3日(土)13:30～ 看護協会2階研修室

【議事内容】

- ①「新型コロナウイルス感染症発生時におけるBCP」について追加・修正はないか個々でみてくる
- ②研修会の日程・内容